

「未来の教育を支える優れた教員の育成を目指す養成・研修の一体的推進」
—教員養成大学と地元教員研修機関との協働による新しい人材育成システムの構築を目指して—

取組の概要

◆調査・聞き取り

- ・採用前と教職経験段階での「教員に求められる資質や能力」についての本人の現状認識及び課題を探る。
- ・養成期から育成、向上期までの研修の在り方を探る。

◆養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・仙台市いじめ防止プロジェクト(学生ボランティア)
- ・被災地防災研修(現職教員) ・新しい学びの手法研究(探求の対話)

◆養成機関及び学校現場の取組

- ・仙台市教育センター研修への学部学生の参加
- ・校内OJTの実践(例:校内留学)

◆調査対象(教員:仙台市内)

- ・初任者 183名
- ・教職5年経験者 108名
- ・教職10年経験者 188名

◆調査対象(学生:宮教大)

- ・4学年学生 279名

◆調査対象(校長:仙台市内)

- ・小中学校校長 7校

取組のポイント・成果

◆取組のまとめ

①調査・聞き取り

- ・初任者が、学級経営に難しさを感じている
- ・5年経験者の現状認識の向上は、現場経験を通して資質能力が身につくことによる。
- ・養成期(学生)に現場経験させることが有効。

②養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・いじめ防止ボランティア活動の展開
- ・被災地研修を取り入れた防災研修の実施
- ・新たな教育活動「探求の対話(p4c)」キャンプ
(体験活動を対話を通じた探求活動の融合)

③養成機関・学校現場の取組

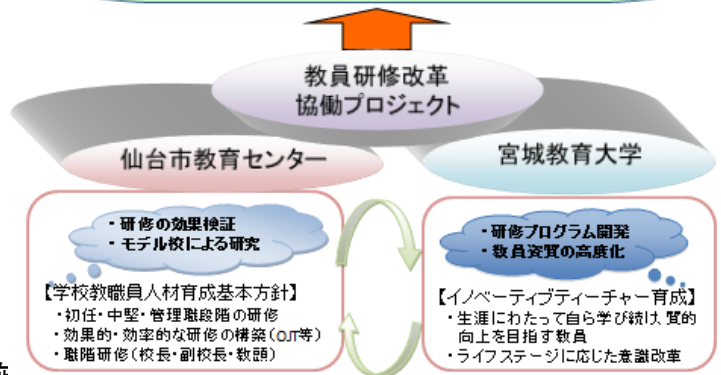
- ・現職教員向け研修への学生の受講
- ・校内OJTとして「校内留学(教師対象)」の実施

◆成果

- ・採用前と教職各段階での現状認識の実態が見え、養成・育成の一体化の重要性が認識された
- ・養成段階及び現職教員における体験的な学びの効果や必要性が明確になった。
- ・教員の資質・能力向上を目的とした研修のあり方を事例を通して提案できた。
※学生の教育センター研修への参加が、現職教員への意識づけや研修の改善につながった。
※「校内留学」は、教員同士の学び合いの場として効果が期待できる取組になった。

教員養成・研修一体的改革推進事業

養成から研修まで一体化した教員育成システムの構築



今後の課題

◆研修の充実と働き方改革への対応

- ・多忙化が進む現状の中で、効果的な研修を具現化するためのシステム化及び提案
- ・教員養成大学による現職教員へのアフターフォロー
- ・教員養成大学と教育行政が連携した管理職への研修の充実